泉丘ＳＳＨだより

石川県立金沢泉丘高等学校

第５号　H18.9.15
編　　集：SSH推進室
発 行 者：上田政憲

韓国サイエンスフェスティバル特集

８月１１日(金)～８月１５日(月)、韓国国際展示場(KINTEX)で開催された『韓国サイエンスフェスティバル』に理数科１・２年、数学部の生徒、計４０名が参加しました。

生徒感想

今回、韓国サイエンスフェスティバルに参加してとても強く感じたことは科学という分野においては国境というものは無力であること、そして国に関係なく、すべての人々が同じ感情を抱くことができるということだ。

正直な所をいうと、私は自分たちのブースには予想しているほど客は来ないであろうと思っていた。ところが、実際は予想以下どころか予想以上の来客数であった。多くの韓国人が来てくれた。それはうれしいことではあったが、接客、その他での労力は想像を絶するものであった。韓国人の子供はもちろんハングル語のみしか理解することはできない。通訳の高校生、少しだけ覚えたハングル語を駆使しても、やはり大変であった。が、試験管に塩化アンモニウムが再結晶し出現したときの子供たちの反応を見ると心が安らいだ。見てるのが面白くなるほど、皆同じように目を輝かせて驚いているのである。このとき、私は自分が小学校のときに同じような実験を見せられたことを思い出した。そのときは、砂糖か何かだったと思うが、それでも自分は驚いた。どんなに文化が違い、言葉が違っても、自分の目前で起こる摩訶不思議な現象に対する驚愕、そして興味関心というものはまったく同じであるということを改めて実感した。

異文化を持つ者同士が意思疎通をする場合、言葉を使うことは非常に重要なことである。だが、それだけではない。他にも、動作、アイコンタクトなども手段のうちに入る。そして、万人に共通するもの、科学のようなものを通じてでも、人々はコミュニケーションをとることができる。そういうことを私は、今回の研修を通して学び取った。また、子供たちの驚きと同じ感情を再び自分で経験するために、今以上に更に勉学に励みたいと思った。

二年生になってから、講義を聞くのではなく、自分のほうから説明することが多くなった。しかし、今回の舞台は韓国。得意な日本語で話しても、まったく言いたいことが相手に伝わらない。そんな特別な条件の下での講義は、僕たちが成長できる一番の機会だったのかもしれない。

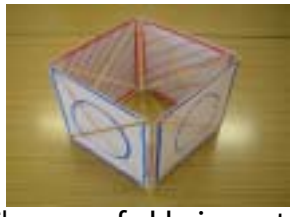
当地についてみると、ものすごい人とものすごいブースが待っていた。おもしろそうな研究ばかり並んでいて、興味をそそるものがたくさんあった。それ故に他のブースと肩を並べて説明できるのがうれしかったしプレッシャーでもあった。

お客さんの数は、増える一方だったが、説明ははかどらなかった。僕たちが研究した「１５パズル」は体験するだけなら簡単だが、その仕組みを理解するとなると難しい。友達に説明しても、理解してもらうのが精一杯だったのだから、拙い英語とハングルで、しかも明らかに十歳以下の子供に説明するのは無理があった。

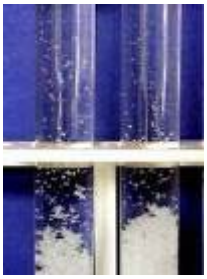
それでも、韓国の子供たちは好奇心が強いようで、「１５パズル」を積極的に体験し、中には日ごろ研究している僕たちよりもすばやく解いてしまう子もいた。それにハングルながら積極的に話しかけてきてくれるので、説明をする方も楽しい。教える方と教えられる方の心の持ちようが同じになることの大切さが、教える側に立ってはじめてわかった気がした。

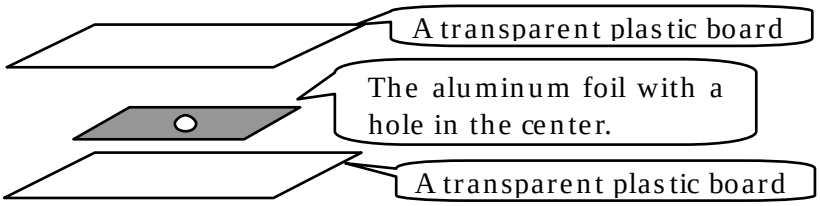
発表内容

数学： Pata Pata (Reversible Triangles Belt) & The 15 puzzle



理科：The snowfall in a test tube & Water lens





事前準備・事前研修

i　パスポート取得のための説明会

　海外へ行くために一番大切なパスポート。２年生は既に全員が取得しているので、主に１年生を対象に説明会を行いました。

ii　保護者に対する事前説明会

　７月下旬に行われる保護者懇談会にあわせ、３日間にわたり説明会を実施しました。また、保護者説明会の日程と合わない方のために、個別の説明も行いました。

iii　用具の準備、発表方法の説明・練習

　生徒一人ひとりが、実験内容の理解を図るための実験などを行いました。その後、実験に使用する用具の準備や、ポスターなどの準備を進めました。

iv　ハングル語講座

　韓国語を理解しようと本校教諭による韓国語講座を実施しました。

v　「第１３回おもしろ科学実験in富山」に参加

　８月６日(日)に富山県砺波市で開催された上記行事に参加しました。ここには韓国からの参加者も多く、積極的に自分たちの実験を説明していました。

vi　用具等運搬の分担、諸注意

　出発前の最終準備及び確認作業を行いました。さあいよいよ出発！！

研修

８月９日(水)　先発隊出発

　生徒の出発に先立ち総括者１名が韓国へ向けて出発しました。

８月10日(木)　会場下見・買出

　主催者への挨拶や会場下見を行いました。現地で調達する予定の実験機器の一部を主催者側からお借りすることができ非常に助かりました。その後、地下鉄を利用し消耗品等の買出しを行いました。

８月11日(金)　開会式

　フェスティバルが開幕。開会式に出席し、本校のブースをお手伝いしてくれる現地の高校生に発表内容を説明しました。うまく通じるか不安な面も合ったのですが、本校の生徒よりも上手な(?)日本語を話す高校生で何の苦労もなく通じました。また理解も早く翌日からの不安が一気になくなりました。そんな中A隊が日本を出発、韓国入りしました。

８月12日(土)　韓国サイエンスフェスティバル

朝早く会場入りし準備開始。発表内容だけでなく学校紹介のポスターも展示しました。発表準備も整い、生徒たちはちょっと緊張気味。でもそこは現代っ子。すぐに緊張も解け、お手伝いの高校生の力を借りながら一生懸命説明していました。また空いている時間を利用し、他のブースを見学してきました。

８月13日(日)　韓国サイエンスフェスティバル　A隊・B隊交流会

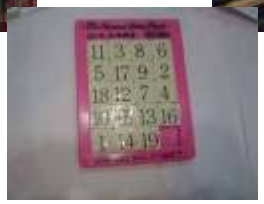
２日目ともなると少し余裕が出てきました。でも言葉の壁は大きく身振り手振りで一生懸命説明しました。上田校長先生も現地視察に来られました。またB隊が日本を出発し韓国で合流。全員がそろったところで引継ぎを兼ねた交流会が行われました。

８月14日(月)　韓国サイエンスフェスティバル

B隊はA隊の見送りを受け会場へ出発。後を引き継いだB隊もがんばりました。

８月15日(火)　韓国サイエンスフェスティバル

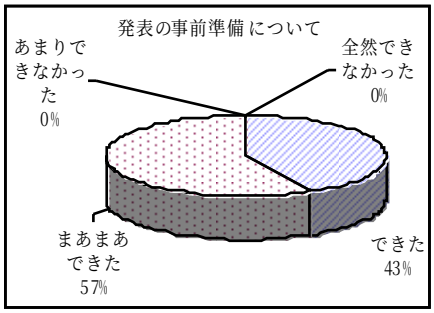
あっという間に最終日となってしまいました。本校のブースはとても好評で何度も足を運んでくれる人もいました。また、手伝ってくれた高校生が、本校が発表した１５並べに似た韓国の１９並べ(?)を持ってきてくれました。お手伝いしてもらった高校生とは今もメール交換をしているようです。

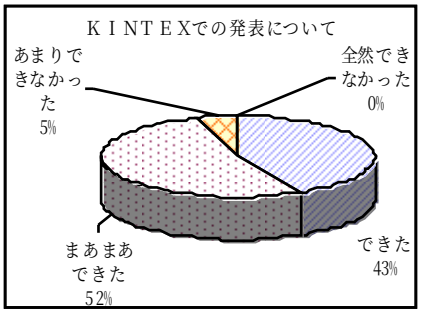


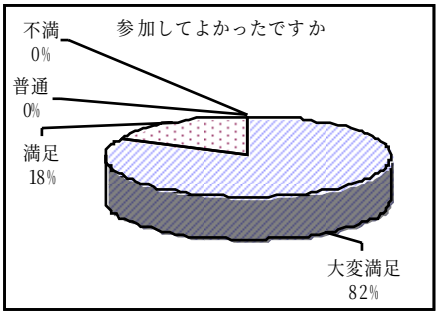
８月16日(水)　帰国

出発時刻まで余裕があったため「国立中央博物館」へ行き、韓国の歴史や文化に触れてきました。全ての説明が韓国語だったのですが、添乗員さんが丁寧に説明してくださったおかげで理解することができました。ここでも言葉の壁を痛感させられました。そして全ての日程を終え無事に帰路につきました。空港では４日間の疲れを感じさせず、勉強に励む姿も見受けられました。さすが泉丘生！！

アンケート結果







ＫＩＮＴＥＸでの発表や研修を通して、学んだことなど感想を自由に書いてください。

○言葉が通じないことに多少の不安はあったもののボランティアの高校生がいてくれてとても助かった。英語を使って話したり、韓国語を教えてもらったりと大変よい体験となった。

○言葉が通じなくてもお互いに理解しようとする気持ちがあれば、楽しくコミュニケーションできることがわかった。何事も積極的にすることが大切でした。

○コミュニケーションは本当に大切だなと思いました。韓国の人は本当に親切ですごく丁寧でした。一生懸命、私たちに伝えようとしているのがわかりました。言葉が伝わらなくてもとても楽しかったです。

○高校生以上の人はたいてい英語を話せたので冗談や雑談を交えながら楽しく説明することができたので良かったです。

○日本語も英語も伝わらない状況でもコミュニケーションは取れるものだとわかった。韓国の人は日本人が嫌いなのかと思っていたけどみんな友好的でやさしかった。

○言葉がなかなか通じない人と話したり質問したりする(英語、ジェスチャー）度胸がついた。

○知っていることでも知らないことでもとても興味を持つことができ、新しいことのように感じられた。韓国語ばかりで、気になる場所でしっかり質問できなかったのは残念だ。

○全体を通してとてもよい研修になった。特に現地で通訳補助をしていただいた韓国の高校生の皆さんには本当に感謝している。皆さんの助けがあったからこそ今回とてもいい研修になった。本当にありがとうございました。

○非常に充実した内容でした。事前に練習した英語での発表がうまくいってうれしかったです。富山での経験がとても役に立ったと思います。

○いかに外国の人と交流そして相手に理解させることが難しいかを強く感じた。

○言葉が通じなくても片言の韓国語や英語でも伝わるし、何より表情や身振り手振りが一番よく伝わることが分かった。韓国の人とお互いに一生懸命自分の考えを伝えあうことができたのが印象的だった。

○簡単なことなら自分で伝えられたが通訳の人たちに頼りっぱなしなのは情けない気がした。難しいとは思うがある程度韓国語は使えるようにしておいた方がよいと思う。韓国の人のブースで英語で説明してもらったとき、伝えようという意志で負けているように思った。

○韓国の一般の人たちと交流できたことが一番よかった。一緒に笑ったりできたことがうれしかった。

○今回の発表で第二言語（英語）の大切さを身にしみて実感した。世界では第二言語として英語がもっとも使われているので外国では英語を使えて当たり前になっているけれども日本ほど先進国で英語を使いこなせない人が多い国はないと聞いたことがあった。実際に発表中に思った。数学のブースにはかなりの多くの親子連れの人がいた。韓国の大人の多くは英語を当たり前のように使い、僕たちが日本の高校生だと分かるとすぐに英語で切り替えて質問してきたのに比べ、僕たちはまともな受け答えすら難しかった。一方で僕たちのためにきてくれた通訳さん達は僕たちとほとんど同い年だった。僕たちが韓国語はおろか英語すらままならなくてジェスチャーでしかコミュニケーションがとれず、英語でもハングルでもいいからとにかく会話がしてみたいと思っていたのだけれど、通訳さん達は余裕の表情で僕たちとも韓国の人たちとも会話していて本当にうらやましく思った。同い年なのにこんなにも言語能力の差があるとは思わなかった。日本では英語ができない国だけに高校大学社会人になっても英語ができる人はそれなりに評価されるけれど、そんなレベルでは世界に通用しないことがわかった。世界の誰もが習得できる言語なのだから、たとえ日本についてもそれはできると思う。国際社会で活躍するための最低限の能力として英語は身につけたいと思った。

たよりの４号でも簡単に報告しましたが、ぜひ皆さんに生徒たちの感想を聞いていただきたいと思い、改めて特集号を発行しました。靖国問題の最中に韓国を訪問するという社会問題も抱えていましたが何事もなく無事に終了することができ喜びの気持ちでいっぱいです。参加した生徒たちもたくさんの事を得てきました。これからの人生にプラスになったことはいうまでもないことと思います。来年度以降の国際交流がどのようになるのかはまだ決まっていませんが、今回の国際交流を参考に計画を立てていきたいと思います。ご意見ご感想をよろしくお願いいたします。